

岐阜分室便り 『28年目の再会』

岐阜分室長 大竹 良昌



揖斐川は平成4年3月に「魚がのぼりやすい川づくり推進モデル事業」に指定されたことから、第一期整備として既設床固工等に魚道が設置されたり、河床変動や老朽化等により機能低下している魚道の改築により改善が図られてきた。平成14年度には管内の魚道に対し、学識経験者を交えた現地調査により、個別機能、上下流との連続性など総合的な魚道機能の評価がされ、揖斐川・根尾川で10箇所（その後の調査で1箇所増加）の魚道機能が発揮されておらず、改築が必要とされた。岐阜分室では、これら魚道の最適工法、形状等を提言すべく昨年に引き続き、学識者及び地元漁協のご指導、ご協力を得て実施しているところである。

業務に先立ち、平成15年度の報告書の内容を確認したところ、対象施設に昭和51年度頃私が測量から設計をした根尾川第一床固工が入っていた。思わず総合評価を見てみると◎になっている。一瞬、「よかった」と感じた。しかし、何かおかしい。魚道が何本も併設されており、改築年度も平成7年となっている。私が設計したのは1本のみ。機能発揮できなかったために全面改築されたと思い、私が設計したと言えなかった。その後、設計図が出てきたので確認してみると、中央に私の設計した魚道があり、両側に呼び水水路、階段式魚道が配置されている。思わず私が設計した魚道だと始めて言うことができた『28年目の再会』である。最初の魚道が十分に機能を発揮していれば増築されなかったが、なにか問題があったということになる。



根尾川第一床固工全景（下流より写す）

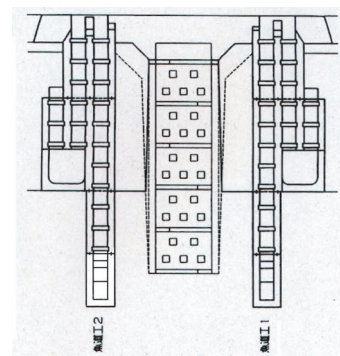
当時は、まず床固工の設計基準もなく、先輩たちが作ってきた資料を参考に、その内容も理解せずに設計をした。魚道については、上司から渡された長良川河口堰で検討されている資料というものが唯一の基準書で、対象魚とか魚道内の水理条件、設置位置をどうするとかという議論は全くなく、これらの資料により床固工本体、取付護岸、魚道等の設計書を作成した。

昭和52年に木曾川上流工事事務所を離れることになり、以降、私の記憶から根尾川第一床固工は全くなっていた。図らずもこの度（財）リバーフロント整備センターにお世話になることになり、床固工の機能評価をする機会があったから仕事として再会できた。

近年の河川環境に対する住民のニーズの高まりなどにより、平成9年の河川法改正において「河川環境の整備と保全」が新たに位置づけられたことを踏まえ、魚道の整備



魚道詳細写真



魚道平面図

においても従来の施策もあって、多くの河川で河川状況にあわせ各種のタイプの魚道が実施されている。これも、多くの研究者や漁業関係者によって魚の生態系が解明されたことと、魚道の技術的な解析によるものと考えられる。

このように多くの方の努力によって完成した施設であることから、施設の目的や構造、フォローアップの状況等をデータベース化して誰もがチェックできるシステムを作り、後々においても施設が効果発現しているか確認できればと感じる次第である。